

2026年3月22日

立教大学国際学術研究交流制度  
2025年度「派遣研究員」報告書

1. 派遣概要

所属・職	異文化コミュニケーション学部・特別専任教授
氏名	武田珂代子
派遣機関名	Department of Translation Studies, Faculty of Humanities, University of Graz 所在国：オーストリア
研究テーマ	トランスレーション・ポリシー研究における歴史的アプローチ
派遣期間	2026年2月27日～2026年3月20日（22日間）
研究経費	712,450円

2. 派遣期間中の活動

離日日および帰国日を含め、派遣期間中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。

活動内容記入例）〇〇に関する調査、〇〇氏と研究討議、共同研究、講演、視察等

年月日	活動内容
2026年2月27日	離日
2026年2月28日	グラーツ到着、研究調査の準備
2026年3月2日	グラーツ大学理論・応用翻訳研究所でクヤマキ教授とオリエンテーション的打ち合わせと他教員への挨拶
2026年3月3日	図書館で資料収集
2026年3月4日	クヤマキ教授とセミナー参加・講義の打ち合わせと準備
2026年3月5日	セレゾ・ヘレロ博士の翻訳通訳と言語教育に関する講演に参加
2026年3月6日	グラーツ歴史博物館で資料収集
2026年3月9日	バハディル＝ベルツィヒ教授と研究会の打ち合わせ、国際女性デーのイベントに参加
2026年3月10日	クヤマキ教授と「翻訳とモビリティ」セミナー参加の準備
2026年3月11日	ゾーハー保田講師からオーストリアの日本語教育について聞き取り、セミナー「翻訳とモビリティ」のディスカッションに参加
2026年3月12日	クヤマキ教授およびシュエグラ博士と翻訳教育一般、トランスレーション・ポリシー（TP）と翻訳通訳史研究について討議
2026年3月15日	バハディル＝ベルツィヒ教授およびグルビッチ博士とオーストリア・日本のTPおよびコミュニティー通訳の歴史と現状、今後のコラボレ

2026年3月16日	ーシヨンの可能性などについて討議
2026年3月17日	紛争における翻訳通訳とAIに関する講義の打ち合わせと準備
2026年3月18日	グルビッチ博士と論文指導法やコミュニティ通訳関連のTPについて討議、教員・学生を対象に紛争における翻訳通訳とAIについて講義
2026年3月19日	クヤマキ教授とTP・翻訳通訳史について総括、学会での共同発表の可能性などについて討議
2026年3月20日	グラーツ発
2026年3月20日	帰国

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果、今後の研究の展望、本学と派遣機関との研究交流にかかる成果、展望等を記入してください。

派遣研究員としての活動目的は、オーストリアやその近隣諸国におけるトランスレーション・ポリシー（TP）の歴史的展開に関する情報を収集し、グラーツ大学の翻訳通訳研究者とTP研究の歴史的アプローチなどについて討議することだった。実際、大学図書館や歴史博物館の資料を調査し、グラーツ大研究者に知見を共有してもらうことによって、「帝国」時代の多言語翻訳や法廷通訳の伝統が現代の地域言語・少数言語の尊重（公文書の翻訳など）に関係していることなどをオスマン帝国の例と対比する形で学んだ。一方、オーストリアで台頭する右派勢力が主張する難民・移民政策の厳格化や多言語主義への反発が広がる中で、難民・移民に向けた通訳サービスを確保するための課題などについても学んだ。特に、移民「統合」のためのドイツ語教育に関する情報は、今日の日本の「外国人政策」を考察する上で今後も参照していきたい。概して、TP研究において歴史的背景を検討することが、TPの今日的課題や解決策の糸口の見極めにつながる可能性について確認できた。

上記主題のほか、オーストリア手話を含む12言語に対応するグラーツ大学翻訳通訳プログラムで、どのようなカリキュラム編成、教員・学生の配置をしているか、特に、会議通訳と医療通訳などのコミュニティ通訳の授業をどのように組み合わせているか、また、プログラム修了生のキャリアについて貴重な情報を得た。さらに、授業におけるAI翻訳の扱い方などについて意見を交換することができた。これらの情報は、本学における翻訳通訳プログラムの今後のカリキュラム編成などを検討する上で大いに参考になると考える。

また、クヤマキ教授のセミナー「モビリティと翻訳」で概念的出発点について学生と行った討議、紛争・戦争における翻訳通訳とAIに関する講義を行った際の学生・教員との活発な質疑応答を通して、学生の関心事や知識レベルなどを知ることができたことも有意義だった。



2026年3月17日翻訳通訳プログラムの学生・教員向けに講義。タイトル：Can AI replace human translators and interpreters in conflict? :

その他、スペイン・バレンシア大学のセレゾ・ヘレロ博士の翻訳通訳と言語教育に関する講演から得た情報、また、グラーツ大学言語・複言語主義・教授法センターで日本語教育を担当するソーハー保田講師への聞き取りでオーストリアの大学における日本語教育、移民統合政策とドイツ語教育などについて得た情報も翻訳通訳教育やTPに関する今後の研究で参照していきたい。当初は、グラーツ市内の公的機関などでのコミュニティ通訳の実践を観察

することを希望していたが、難民申請者などのプライバシー保護の理由で実現できなかった。

グラーツ大学は、従来から、通訳翻訳史、紛争・コミュニティ通訳の研究拠点の一つとして、優れた研究成果を発信してきた。今回、同大学研究者・院生と討議を重ねる中で、今後も互いの知見を共有し、意見交換を進めていくこと、具体的には、合同ワークショップの開催や学会での共同研究発表などでコラボレーションの可能性を追求することを確認できたことを嬉しく思う。